

C³プロジェクトでは、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を設置し、皆さんと一緒に、行政や事業者との議論の場や、必要なリスク情報づくりを進めることにしています。

4月から、参加していただいている住民の皆さんと議論を重ね、2つのプログラムの実施を決定しました。皆さんのお考えや要望を実現してみませんか。参加はいつでも受け付けています！！

東海村の環境と原子力安全について提言する会への参加 申し込み方法

参加申し込みチラシの裏面にあるハガキに必要事項をご記入の上、お申し込みください。

2004年3月31日まで受け付けています。

参加申し込みチラシは、C³プロジェクト事務局のほか、合同庁舎1階ロビー、駅、役場、核燃料サイクル開発機構（アトムワールド、リコッティ）、日本原子力研究所（インフォメーションプラザ東海）、日本原子力発電所（テラパーク）内に置いてあります。

10月の活動予定

事務所を開けている時間帯
◎10時～16時
○10時～18時
△12時30分～16時

月	火	水	木	金	土	日
		1 △	2 ◎ 第2回視察実行委員会	3	4	5
6	7 ◎	8 閉	9 ○	10	11	12
13	14 ◎ 第5回提言する会 会合 16時～	15 △	16 ○	17	18	19
20	21 ◎	22 △	23 ○	24	25	26
第1回視察	27 ◎	28 △	29 ○	30	31	
	◎	△	○			

予定は変更になる可能性がありますのでご了承ください。

2003年 10月 第5号

提言する会の活動 始まる！

原子力事業所の安全対策を住民の目で確認する現場視察を行います

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」では、住民の目で原子力事業所の安全対策を確認する視察プログラムの実施に向けて、5名の実行委員が核燃料サイクル開発機構と実施内容について議論を行っています。

9月10日には、第1回実行委員会を行い、おおよその視察コースと実施候補日を決定いたしました。10月2日に予定している第2回実行委員会では、核燃料サイクル開発機構から詳しい視察コースの説明をいただき、必要があれば「提言する会」から要望を追加する予定です。

第1回視察の基本的な考え方と内容

核燃料サイクル開発機構の再処理施設を対象に

再処理施設の運転状況と廃棄物処理の方法について

設備上の安全対策と運転・作業する人の意識の面から

住民の視点で観察し、意見交換をする

第1回視察の実施は、10月20日（月）です。

この視察の結果は視察に参加した人でまとめ、ニュースレターやホームページで公開していきます。

核燃料サイクル開発機構東海事業所は、これまでの見学会とは異なる原子力事業所の視察に積極的な協力をしてくださっています。

今秋、原子力や環境リスクの活動が続きます

リスクについての連続セミナーを準備中！

「放射線や放射性物質ってどんなもの？」「万一のときはどうすればいい？」「化学物質の危険性や食の安全について知りたい！」

皆さんの疑問や要望に答えることを目指して、東海村の原子力や環境リスクに関する連続講座を企画中です。万一、原子力事業所で事故が起きたときに“落ち着いて行動する”ために知っておきたい知識も満載！「こういう説明がほしかった」と言われるセミナーを目指します。

11月開講予定

リスクの専門家と話そう！

今秋、日本リスク研究学会が東海村で学会を開催します。C³（シーキューブ）事務局では、日本リスク研究学会と共催で、リスクの専門家に住民の皆さんが質問したり、健康や環境のリスクについて意見を伝えたりするワークショップを企画中です。

原子力はもちろんのこと、化学物質や環境ホルモン、食品安全、自然災害、廃棄物（生活ゴミや産業廃棄物）などさまざまな専門家が集まります。日ごろ気になっていることについて、専門家の話を聞く絶好のチャンス！と同時に、専門家も皆さんが不安に思われることや心配されることについて学びたいと考えて参加します。皆さんの声を専門家に届けてください。皆さんの意見は、これからのリスク研究に必要な情報です。

現在、学会側と開催内容の詳細を検討しています。10月中旬にはご案内する予定ですので、ふるってご参加ください。また、このワークショップは、東海村以外の方も参加できますので、お知り合いの方々にも声をかけていただければ幸いです。

これらの活動に関心のある方は、ぜひ「東海村の環境と原子力安全について提言する会」にご参加ください。また、提言する会の活動についてご提案やご要望がありましたら、C³（シーキューブ）事務局までご連絡ください。（事務局の連絡先は裏面にあります。）

提言する会 新メンバー紹介 （2003年8月31日現在）

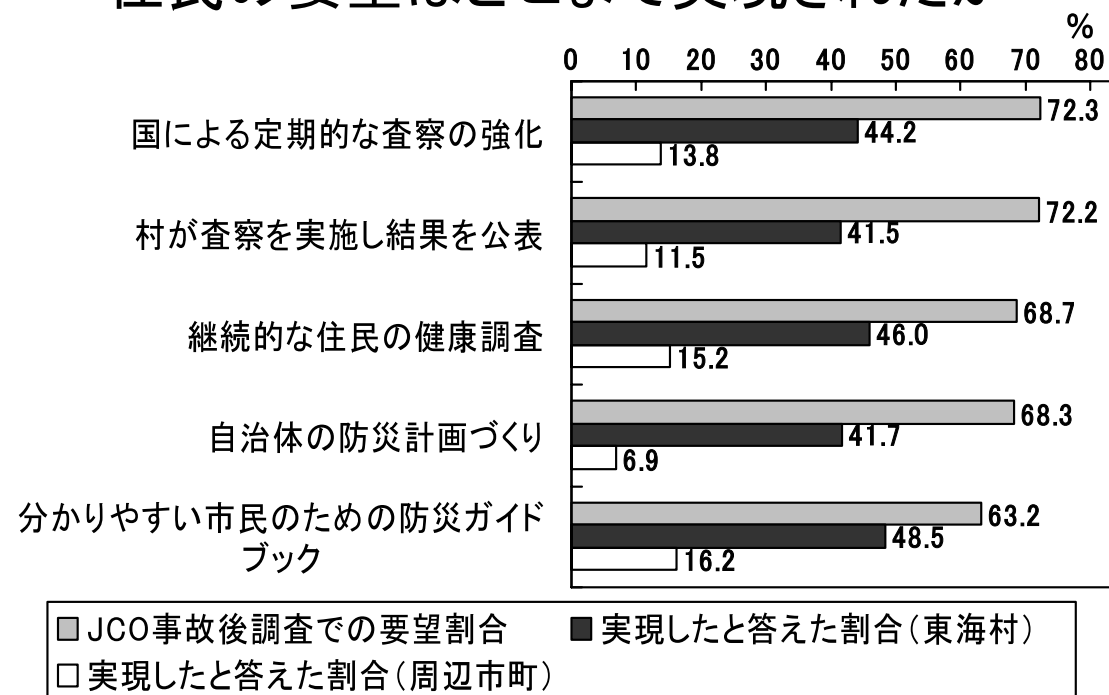
澤井 滉 須和間



私は東海村にお世話になり40年。すばらしい環境の地、そして原子力施設と共存してみんなが元気で明るく生活を営んでいましたが、JCOの事故に私は大きなショックを受けました。私は原子力発電所の各種機器製作に44年従事いたしました。この経験が提言する会の中でお役にたてばと思っています。素晴らしい環境の村に負の遺産を残さないようにしたいものです。そして原子力の火を消さないためにみんなで知恵を出していきましょう。原子力の村東海・・・

調査結果のご紹介

住民の要望はどこまで実現されたか



JCO事故の後、東海村の住民の皆さんが強く要望されたことが、事故後の3年間に実現されたと思うかどうかをたずねた結果です。東海村では40%以上の方が「実現されたと思う」と答えていらっしゃいます。一方、周辺市町の人で「実現された」と感じている人は20%に達していません。被害を受ける可能性のある人すべてに十分な情報を届けるという点で自治体の協力関係が欠かせません。

リスクセンスを身につけよう ①リスクを意識してみる

日本国内で狂牛病にかかった牛が発見されたとき、多くの人が牛肉を食べないようにしました。しかし、医師に注意されない限り、毎日の食事の塩分を減らそうという人はほとんどいません。リスクセンスとは、私たちの生活の中のリスクについて知り、専門家の情報を理解し判断できる能力をもつことです。もしリスクセンスがなければ、専門家が「何もご存知ないから、代わりに決めてあげましょう」といっても反論できません。《自分で判断する権利》を譲り渡してしまう危険を冒さないために、あなたのリスクセンスに磨きをかけましょう。

リスクセンスを磨くための一步は、「身の回りのリスクを意識する」ことから始まります。以下はあるアメリカ人の朝の例です。毎朝私はベッドサイドのスタンドをつける。（家庭の配線や家電製品で感電死するアメリカ人は年間60万人以上、私が感電死する確率は400万分の1だ。）もう少しベッドにいたいと思う。（ベッドやマットレス、枕のせいで怪我をするアメリカ人は、毎年40万人以上。このような怪我をする可能性は1年に650万分の1以上ある。）半分寝ぼけた状態で浴室に向かう。（家の中で滑ったり転倒したりして毎年平均8500人のアメリカ人が死亡し、200万人近くが怪我をする。自分が家庭内事故で死ぬ確率は約3万分の1。）

あなたの暮らしの中のリスクはいかがですか？